

氏名	難波 靖 治		
授与した学位	博	士	
専攻分野の名称	医	学	
学位授与番号	博 甲 第 1282 号		
学位授与の日付	平成 6 年 3 月 31 日		
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学（二）専攻 （学位規則第 4 条第 1 項該当）		
学位論文題目	肺癌患者におけるHTLV-I感染と間質性肺病変に関する研究		
論文審査委員	教授 太田 善介	教授 赤木 忠厚	教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

びまん性肺疾患とHTLV-I感染の関連，さらに肺癌発症とHTLV-I感染の関連を明らかにするため，肺癌症例においてHTLV-I感染とびまん性間質性肺病変について検討した。

1985年から岡山大学第二内科へ入院した肺癌140例と沖縄在住の肺癌31例を対象とし，抗HTLV-I抗体の有無と一部の症例ではPCR法を用いたリンパ球へのproviral DNAの組み込みを検討した。間質性病変については治療前の胸部レントゲン写真で検討した。

対象症例中の抗HTLV-I抗体陽性率は両在住地域における健常人の抗体陽性率と比べ高率であった。また抗体陽性症例の組織型は当科5例中4例，沖縄8例中7例と非小細胞癌発症が多数であった。間質性肺病変を認めた症例は当科35.0%，沖縄48.3%と沖縄例においてやや高率であり，線維化の進行している症例で抗HTLV-I抗体が高率に検出された。しかしpX遺伝子と肺癌組織型，線維化の進行度に一定の傾向は認められなかった。以上より，抗HTLV-I抗体の存在と間質性肺病変，さらには非小細胞肺癌発症との関連が推察された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はびまん性肺疾患とHTLV-I感染の関連，さらに肺癌発症とHTLV-I感染の関連を明らかにするため，肺癌症例においてHTLV-I感染とびまん性間質性肺病変について検討したものである。岡山大学第二内科へ入院した肺癌140例と沖縄在住の肺癌31例を対象とした。症例中の抗HTLV-I抗体陽性率は両在住地域における健常人の抗体陽性率と比べ

高率であったことなどより抗HTLV-I抗体の存在と間質性肺病変，さらには非小細胞肺癌発症との関連を推定したものである。これは価値ある業績であり，よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。